

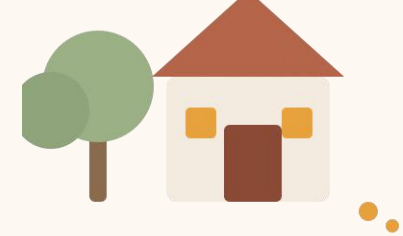
第1回 網野まちなか再生・活性化協議会

事務局からの説明

これまでの検討経過 / 協議会の進め方 / ワークショップ

資料3



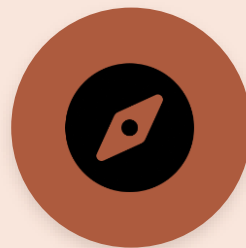


本日の流れ



これまでの検討経過

これまでの議論の積み重ねを共有
します



協議会の進め方

全5回で、アイデア出しから設計
方針まで検討します



ワークショップ

本日のテーマ「**キーコンセプト**」を議論
します

計画地の概要

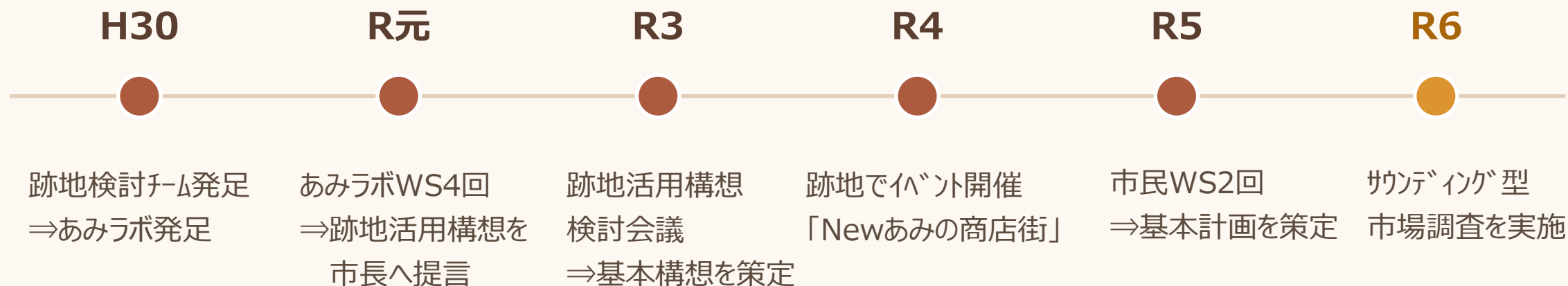


敷地面積 約7,400m²

法指定 非線引き都市計画区域
容積率200%・建ぺい率60%

現況 網野庁舎別館・倉庫（R8年度中解体完了予定）
消防車庫、積雪計、地震計、ポンプ施設が残置

これまでの検討経過



これまでの検討で見えてきたこと

わかっていること

- ★ 周辺エリア・施設と一体で捉え、相乗効果を発揮させる
- ★ 行政・民間まかせにしない、地域や利用者に喜ばれる施設・運営を目指す

まだ足りていないこと

- ★ 投資回収が難しく、民間単独の施設整備は難易度が高い
- ★ 周辺機能（施設）との連携・相乗効果、必要な機能の絞り込みが不十分
- ★ 地域、民間事業者、行政が適切な役割分担で、持続可能な体制づくり

だからこそ → 整備方針・施設設備・運営手法を、これから協議会で検討していきます

これまでの計画で示されている土台

基本理念

「ひと」と「まち」と「歴史」がつながり
“いきいき”“わくわく” まちの未来を育む交流拠点

基本方針

《基本方針》

- ❖ まちの協働・共創と学び合いの場
- ❖ 多世代交流(子どもからおじいちゃん・おばあちゃん)の場
- ❖ 子育て親子の交流と遊びの場
- ❖ 若者が未来へのチャレンジする場
- ❖ まちの歴史と魅力を発信する場

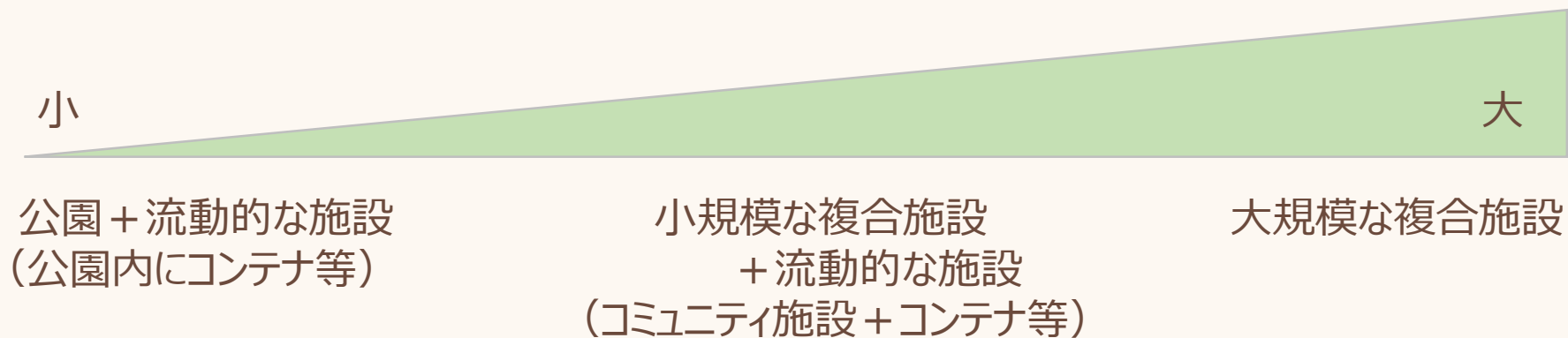


- ❖ 地域内外の集客を図り賑わいを創出する場

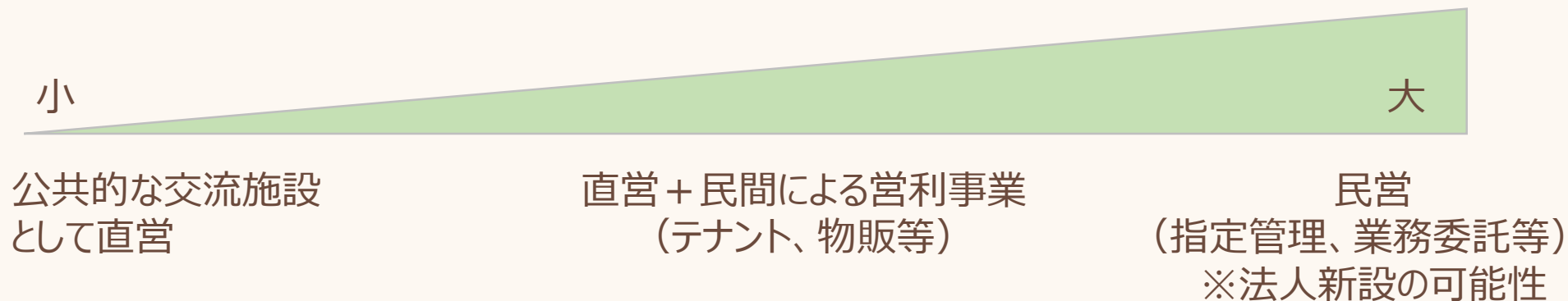
※これまでの検討経過における具体的な意見・市民ニーズ・整備イメージ等は『基本計画』を参照

「規模」と「運営」、検討の幅

① 整備規模



② 運営



この協議会は、全5回でビジョンから具体へ



※ 第3回・第4回の間で「先進地視察」を予定

※ 網野地域住民への検討状況の周知等のための地域活性化WSを開催予定（10月～12月の間に2回程度）



「キーコンセプト」とは

基本理念は抽象的、基本方針は総花的。**誰もが直感的に方向性を理解できる言葉**が「キーコンセプト」です。



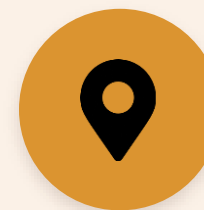
整備の軸

本事業がどんな未来につながるのか。計画全体を貫く、ブレない軸



全員の共通言語

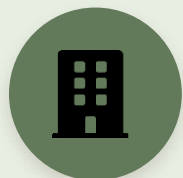
多様な立場の人が、目指す方向性を共有するための言葉



立ち返る判断基準

施設整備や運営の検討で迷ったとき、立ち返る基準

「キーコンセプト」の事例



まちまち案内所（京丹後市峰山町（株）うらうら）

コンセプト

『まちまちな人が混ざり合い、待ち合わせできる場所』

整備・運営でしていること

- 丹後地域に住む人、他のまちから来る人が集まり、何でも話せる場所、仕事の話や世間話、子どもたちのはしゃぐ声や見ず知らずの人との出会いや会話が生まれ、アイデアが膨らむ場所を目指している。
- 「カフェスペース」「みんなの本棚」「くつろぎスペース」「コワーキング＆ミーティングスペース」「ものづくりスペース」の5つのスペースが1つに集まった施設

だから、こう使われている

働く人も遊ぶ人も自然に行き交い、偶然の出会いから新しい関係や学び、発見が生まれ続けている。



提供：（株）うらうら

CASE STUDY / コンセプトが生んだ、使われ方



SHUKUBA (丹波篠山市 NPO法人SHUKUBA)

コンセプト

『みんなでつくる、文化と暮らしの学校』

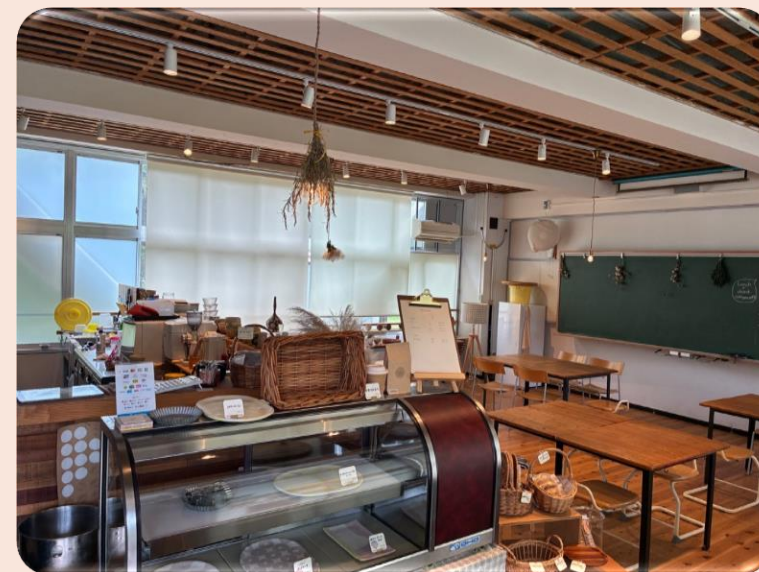
暮らしを豊かにする学び・なりわい・にぎわいを応援するハコ

整備・運営でしていること

- ・ 旧福住小学校を改修し、NPO法人SHUKUBAが市から指定管理を受けて運営している地域コミュニティ活性化施設
- ・ チャレンジカフェ、農産加工所その他、写真家や織物などの文化的なプレイヤーなどの多様なテナント、地域の歴史・文化の探求・展示スペースなどがある。
- ・ 地域住民が主体となり、コンセプトづくりから改修、テナント募集、運営まで取り組んでいる。

だから、こう使われている

廃校の日の黒板のメッセージをそのまま残すなど、愛着のある学校の姿を活かし、地域の交流や文化継承が行われている。



提供：NPO法人SHUKUBA



URBAN PICNIC (神戸市 (一社) リバブルシティイニシアティブ)

コンセプト

『みんなのキャンパス』

～大学のキャンパスのように市民が通い、様々な文化に出会って体験し、新しい価値を想像し交流する～

整備・運営でしていること

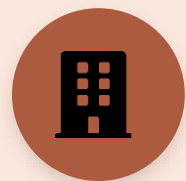
- 運動公園「東遊園地」内にある、カフェ&レンタルスペース「URBAN PICNIC」。芝生広場や「アウトドアライブラリー」と併せて、賑やかなまちの一角に、多様な人が思い思いの時間を過ごせる豊かな空間を提供している。
- 7年間の社会実験期間を通して公園本来の意義や価値について検討した結果、商業利用の要素や一時的な来園者数を増やすイベントをあえて抑えて、多様な人々が日常的に集まる空間づくり、公園だけでなく周辺地域の価値を高めていくイベント・プログラムを重視している。

だから、こう使われている

市民が遊びの延長で企画・運営に携わる関わりしろがあり、芝生で本を読む人、仕事をする人など、日常的に思い思いに楽しむ場になっている。



提供：URBAN PICNIC



千里中央公園 1000RE SCENES (豊中市 千里中央公園パークマネジメント(株))

コンセプト

『PLAY 1000RE SCENES』

公園の魅力を再発見し、千里の暮らしを彩る千の景色をみんなでつくる。

整備・運営でしていること

- 公園内の管理棟等を改修し、カフェ、無人コンビニ、コミュニティラボを整備
- 公園を地域コミュニティの核と位置づけ、収益施設事業と活性化事業を運営しながら、地域住民とともにエリアの活性化・地域課題の解決に取り組んでいる。
- 地域住民やクリエイターが「公園でやってみたいこと」を提案し、実現できるDIYワークショップや共創型イベントを展開している。

だから、こう使われている

住民や子どもたちがイベントの「参加者・仕掛け人」となり、ただ散策するだけでなく自ら関わりながら新しいコミュニティを育む場となっている。



提供：千里中央公園パークマネジメント(株)

CASE STUDY / コンセプトが生んだ、使われ方



morineki
(大東市 (株)コーミン)

コンセプト

『ココロもカラダも幸せに暮らせる住宅地』

整備・運営でしていること

- 入居者の生活がジャンプアップする市営住宅を作りたい、周辺の住民が喜ぶ市営住宅建替をしたいという想いに基づき、民間で賃貸住宅（当面は借り上げの市営住宅）を含む敷地の整備を行い、周辺のエリア価値の向上に取り組む。
- 住宅エリア、公園エリア、民間事業エリア（レストラン、アウトドアショップ、ベーカリー、アパレルショップなど）からなり、市営住宅の建て替えを機に、公園の中に店舗や住宅が建っているかのようなエリアを整備
- 従前の四角い箱のような市営住宅のイメージを刷新し、この地域に住みたいという人を作ることを目指した。

だから、こう使われている

ショップだけではなく、様々なワークショップが毎日行われ、市外からも人が集まるように変わっている。



CASE STUDY / コンセプトが生んだ、使われ方



隼Lab. (八頭町 (株)シーセブンハヤブサ)

コンセプト

『多様な生き方がゆるやかに重なり合い、ここで生まれる新たな学びが、一人一人の暮らしを豊かにする場。』

地域に新たな挑戦が生まれるコミュニティ複合施設を目指して運営。

整備・運営でしていること

- 旧小学校を行政が改修整備し民間企業に賃借し運営している施設
- 1階は、カフェやシェアキッチンなど、地域住民に開かれたコミュニティ空間
- 2・3階は、シェアオフィスやコワーキングスペースなど、約40企業が会員・入居
- グラウンドでは、毎年地域の運動が開催され、入居企業と地域との交流の機会を創出

だから、こう使われている

お子様連れも利用しやすいカフェは賑わい、地域住民もシェアキッチン等を多く利用している。様々な人が混ざり合い新たなコミュニティを醸成し続け、持続可能に運営されている。



事務局が目指したい、跡地整備にこめる4つの視点



愛着

地域の方に長く愛され、「我が家の庭」のように関わり続けられる



余白

時代の変化に対応できる、“育てる”余白のある整備



一体性

周辺の公共施設等と連携し、網野地域全体の活性化へ



持続可能性

地域、民間事業者、行政が適切な役割分担で、持続可能な体制づくり

「利用者」だけでなく、 「プレイヤー」の目線でご参加を



自分たちなら、ここで何ができるか



どんな場所なら、毎日通いたいのか

庁舎跡地が、網野のみなさんに愛される身近な空間となるように、「あの時、考えてよかったな」と思えるように、一緒に考えていきましょう。



～ 質 疑 応 答 ～

ここまでの内容について、ご質問はありますか？

本日のゴール



基本理念・方針を踏まえ、跡地整備で目指す姿
整備の軸となる「キーコンセプト」を議論すること

本日のこと



① 網野の現状把握

約35分

地域の現状・特性を再認識
本プロジェクト外で対応できそうな課題と対応策



② 跡地活用で目指す姿

約50分

整備のキーコンセプトを議論

<35分の内訳>

現状把握
10分

課題の整理・対応策
25分

<50分の内訳>

個人ワーク
5分

グループワーク
30分

発表
15分

気持ちよく話すための3つの約束

1



批判・否定をしない

他の委員の意見を頭から否定せず、
まずは受けとめて議論しましょう

2



全員発言・傾聴の姿勢

1人が長く話しすぎず、全員が
発言できるよう配慮しましょう

3



主体的な立場での発言

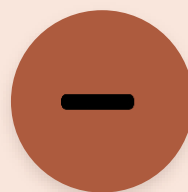
自身が運営・活用する主体である
という意識で参加してください

網野の「今」を書き出そう



魅力（+）

網野の良いところ、好きな場所、
お店、イベントなど



課題（-）

網野地域の課題、もっとこうだったら
と感じること



興味（!）

自分の興味のあること

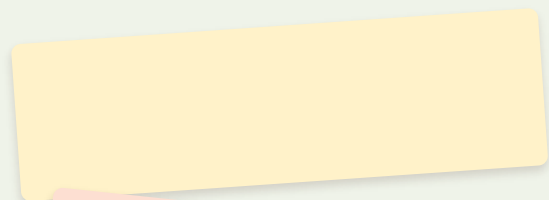
興味のヒント

書き出した「興味のあること」が、**次回以降の「利用シーン」**を考えると**きの大切なヒント**になるかもしれません。

WORKSHEET ①

ワークシート：網野の現状把握

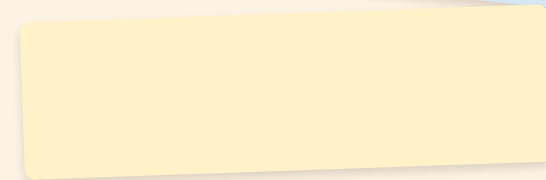
+ 魅力



- 課題



! 興味



ふせんの書き方は、とてもシンプルです



① ふせんに、ひとつこと

1枚のふせんに、言葉をひとつだけ
文章でなく単語やフレーズでOK



② シートに貼る

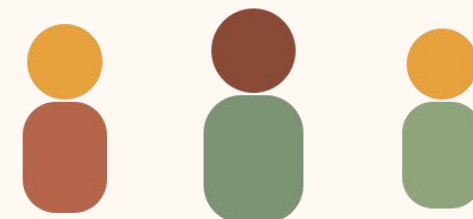
+ / - / ! の枠に、
貼りたい場所へ。



③ 声に出して共有

「これは〇〇だから」と添えると、
会話が広がります。

ポイント：正解はありません。「なんとなく気になる」も立派な意見です。



本プロジェクトで対応できそうな課題

この後の跡地の目指す姿を検討するにあたり、出た課題に対して、本プロジェクトで対応できそうかを検討する
※課題や対応策に沿ったキーコンセプトでなければならないわけではございません。



①課題の張り替え

似た課題をまとめてシートの1列目のボックス【課題の分類】に貼り付け直す。



②対応策のアイデアだし

隣の列【対応策】に課題に対する対応策として考えられるものをふせんに書いて貼り付けながら、グループでポイントとなる課題や対応策を話あう。

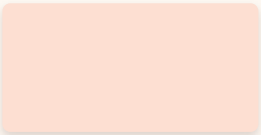
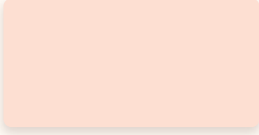
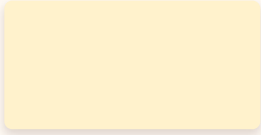
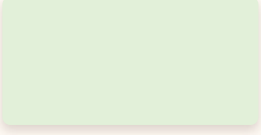


③本プロジェクトで対応できそうな課題

本プロジェクトで対応できそうな対応策をさらに右の列【本プロジェクトで対応できそうなこと】に移動。

WORKSHEET ②

ワークシート：本プロジェクトで対応できそうな課題

課題の分類	対応策	本プロジェクト外で対応できそうなこと
 		
		
		

まずは“施設”より先に、キーコンセプトから

基本理念・基本方針は
抽象的・総花的

だからこそ、網野らしい
“言葉”に翻訳する

それが「キーコンセプト」
＝設計に進む土台

① 跡地活用で目指す姿

10年～20年後の未来に網野がどうあってほしいか、そのために跡地をどんな姿を目指して整備をしていくか



個人ワーク

5分

ワーク①を踏まえ、目指す姿実現のために大切にすべきこと、ポイントとなるキーワードやフレーズをふせんに書く



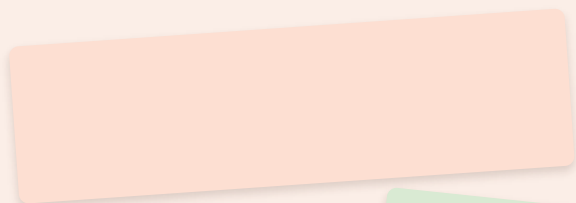
グループワーク

30分

ふせんを共有し、意見交換や追加のふせん出しをしながら、グループ内で分類や共感の多い意見のまとめを行う。

ワークシート：跡地活用で目指す姿

① 跡地活用で目指す姿



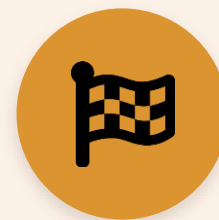
グループの意見を、全体で分かち合う



発表

各グループ代表がグループの
まとめを発表

15分（各3分）



次回へ

事務局で今回出た意見を整理
次回「キーコンセプト決定・利用シーン」へ

残り4回で、コンセプトを形にしていきます

第2回

9/11

キーコンセプト決定
利用シーン検討

第3回

10/9

必要な機能
エリア連携検討

第4回

11/13

設計方針
(骨子案) 検討

第5回

12/17

設計方針
(素案) 検討

委員のみなさまへ

この協議会でのお話が、この先何十年も網野のみなさんに愛される場所づくりへとつながります。



アンケートについて

- キーコンセプトについて伝えそびれたこと
- 協議会の進行に関すること（次回以降のブラッシュアップのため）
- 跡地整備に参考となりうる他の事例

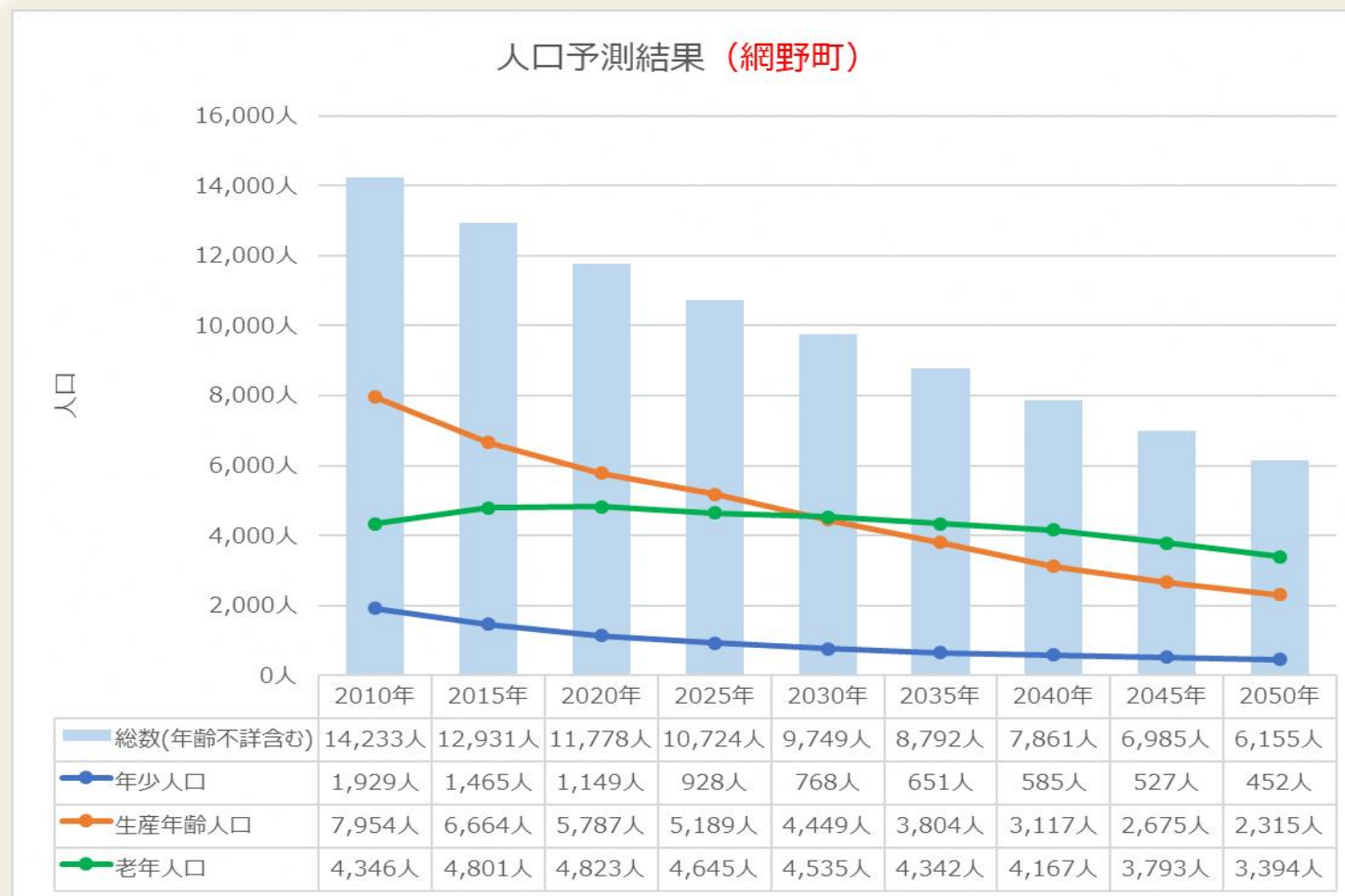
などございましたら、QRフォームから、8月26日までにご意見をお寄せください。

本日から全5回、どうぞ率直な思いを聞かせてください。ありがとうございました。



人口推移

人口予測結果

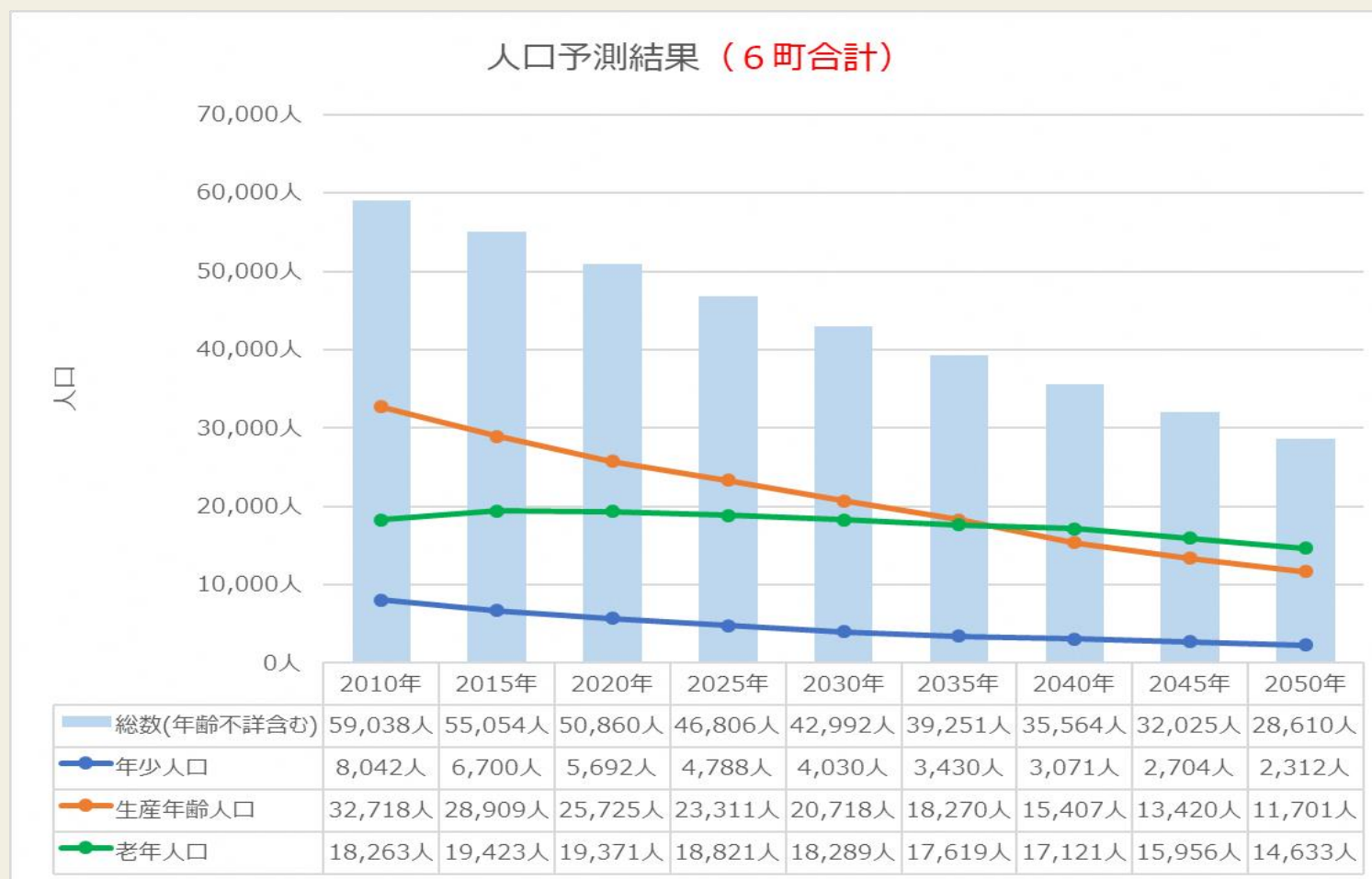


注：実績値の総数には年齢不詳を含む／資料：実績値は総務省「国勢調査」、推計値は国交省 国土技術政策総合研究所（将来人口・世帯予測プログラム）に基づく

参考：社会保障・人口問題研究所（令和5年3月推計）によれば、2045年の推計人口は32,255人

人口推移

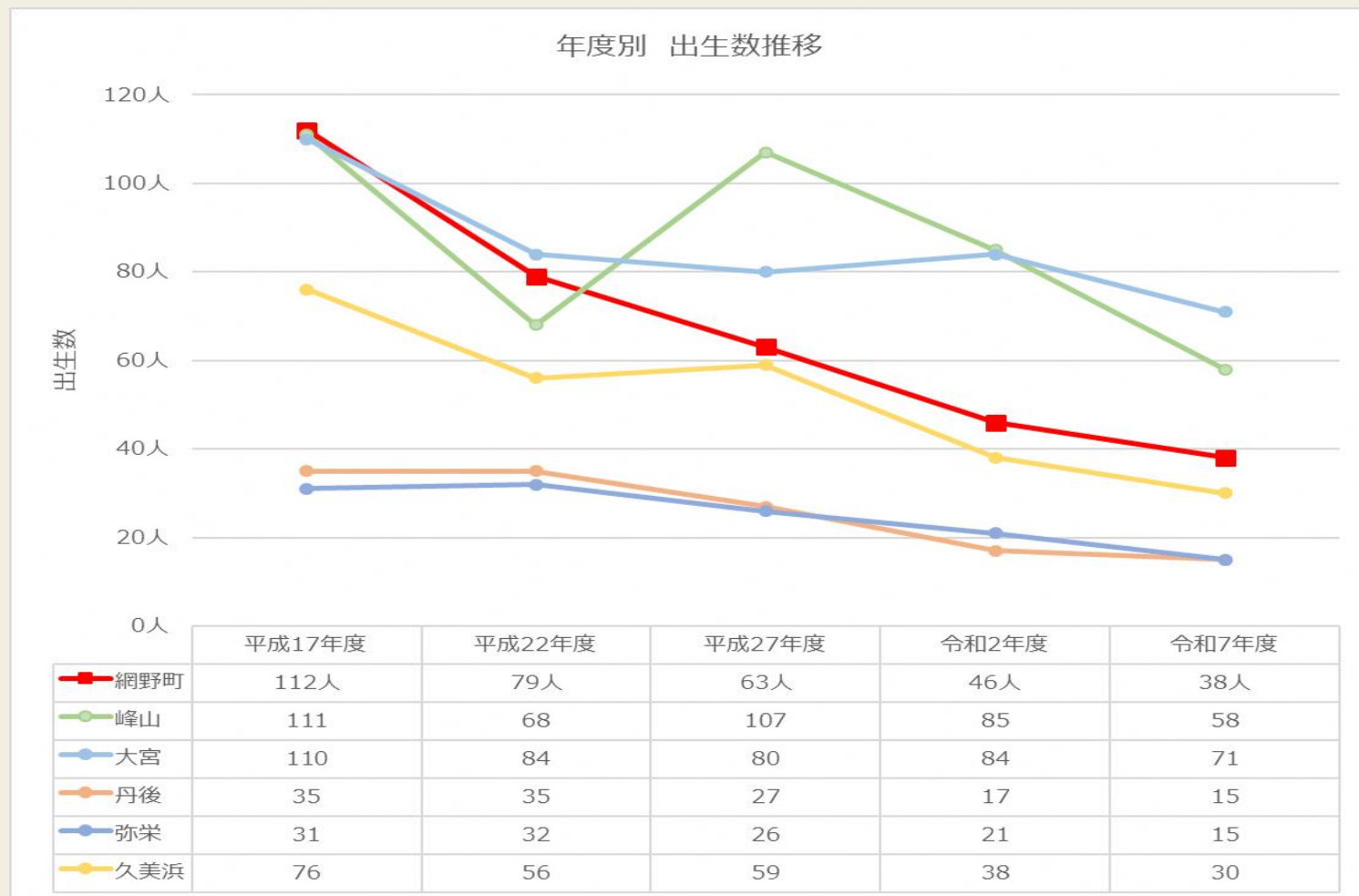
人口予測結果



注：実績値の総数には年齢不詳を含む／資料：実績値は総務省「国勢調査」、推計値は国交省 国土技術政策総合研究所（将来人口・世帯予測プログラム）に基づく

参考：社会保障・人口問題研究所（令和5年3月推計）によれば、2045年の推計人口は32,255人

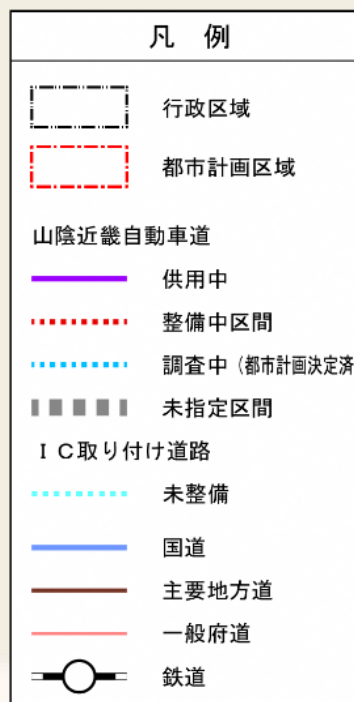
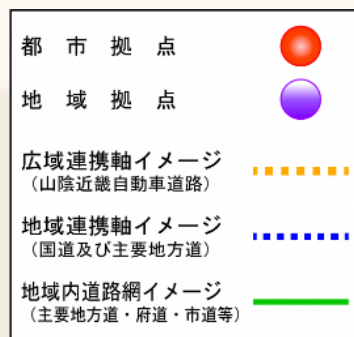
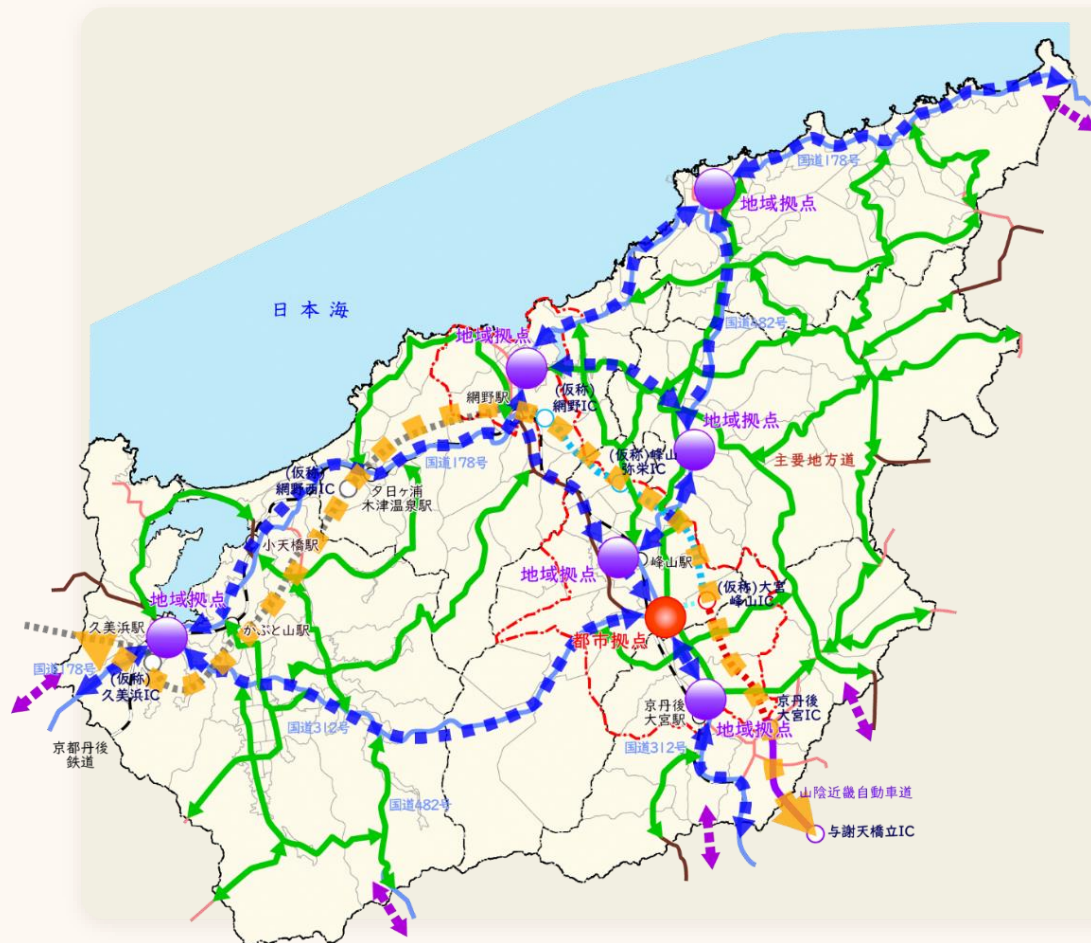
出生数推移



資料：住民基本台帳に基づく実績

将来の都市構造（京丹後市都市計画マスタープランから抜粋）

多極ネットワーク型のまちづくり



<拠点の形成>

各地域の市民局周辺の市街地を、日常生活機能に加え6つの町それぞれの地域特色に応じた機能を高める地域拠点として位置付けます。

第3次京丹後市総合計画に基づき、国道312号と482号の交差点付近から商業機能の立地が進む国道312号沿線周辺部において、市域全体の拠点として利便性と魅力を高めるため都市機能を集積する都市拠点の形成と交通結節機能の向上を図ります。

<軸の形成>

軸については、山陰近畿自動車道の整備による市外と市内各地域を結ぶ「広域連携軸」と、拠点間、市内各地域や隣接市町を結ぶ「地域連携軸」を位置付け、市内全域のアクセス性を向上させるネットワークを形成し、人・モノ・ことの流動や防災性を向上させる山陰近畿自動車道を軸としたまちづくりを目指します。

各地域の生活機能の維持・保全を図るため、市全域の国道・主要地方道・一般府道・市道等を利用して、地域拠点と各地域間の連続性の向上を図ります。

また、持続可能で円滑な移動を実現する公共交通ネットワークの構築と、利用促進による多極ネットワーク型のまちづくりを目指します。